**中学校**　**資料名「背番号 10」**（出典：「大切なこころ」を見つめ直して）

◆**学校名**　東大阪市立新喜多中学校，　富田林市立明治池中学校，　富田林市立第二中学校，
藤井寺市立道明寺中学校

◆**主題名**　感謝の気持ちをもって　　**道徳の内容**　B－感謝

◆**ねらい**　部員や監督の支えなどで今の自分があることに気づく主人公の道徳的変化を考えることを通して、周りの人々の善意や支えに感謝し、こたえようとする道徳的実践意欲を高める。

◎**中心的な発問**

「深々と頭を下げた。」このとき、「僕」は誰にどんなことを思ったのだろうか。

◆**本時の展開**

| | 学習活動 | 発問と予想される子どもの反応 | 指導上の留意点及び評価 |
|---|---|---|---|
| **導入** | ◎各スポーツの背番号が持つ意味から、野球における「背番号 10」の役割を知る。 | 「サッカーって何人でするスポーツ？<br>背番号 10 ってどういう役割？」<br>・11 人、エースストライカー<br>「野球は何人でするスポーツ？<br>背番号 10 ってどういう役割？」<br>・9 人、ベンチメンバー | ○導入のため、ふくらませすぎずすぐに野球の話に入る。<br>○「背番号 10」に興味を持たせる。 |
| **展開** | ◎資料を読む。<br><br>◎キャプテンとしてチームメイトに不満を感じ、非難する心情を理解する。 | 「キャプテンなんかやってられんわ。」とこぼしたとき、「僕」は何を考えていたのだろう。<br>・なぜついてきてくれない。<br>・甲子園に出たいのに、絶対無理だ。<br>・このやり方は間違っているのかな。<br>・どうすればいいんだろう。 | ○資料を範読する。<br><br>○発問の前に、「僕」の立場やチームの状況を確認する。<br>○「僕」がチームメイトの協力に気づかず非難を繰り返すことで、チームメイトの気持ちが離れていっていることを確認する。 |
| | ◎骨折をしたことにより自分の行動を見直し、野球やチームを思って行動するようになった心情を理解する。 | 父に一喝された後、なかなか寝付けなかった「僕」はどんなことを考えていたのだろう。<br>・父はなんでわかってくれないんだ。<br>・どんな気持ちで野球を始めたんだっけ。<br>・今までのやり方は間違っていたのかな。<br>・どうすればチームの役に立てるだろう。 | ○父の一喝で心境が変わり、野球への思い、チームへの思いをより強くしたことを確認する。<br>○反省や過去のことばかりしか出てこない場合は、この後の僕の行動を見て、どういう気持ちの変化が起こったのかを考えさせる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 展開 | ◎チームメイトのキャプテンへの思いを理解し、共感する。 | 二度目の拍手にはどんな思いが込められていたのだろう。<br>・キャプテンはベンチ入りにふさわしい。<br>・今までありがとう。<br>・おめでとう。<br>・一緒に甲子園に行こう。 | ○発問の前に「僕」が背番号 10 をもらったことを確認する。<br>○チームメイトも「僕」に対して感謝していることを確認し、感謝が双方向であることに気付かせる。<br>○一回目の形式的ともとれる拍手と、二回目の心のこもった拍手との違いにも気づかせたい。 |
| | ◎様々な人に支えられてきた「僕」の感謝と感動を理解し、共感する。 | 「深々と頭を下げた。」このとき、「僕」は誰にどんなことを思ったのだろうか。<br>・監督へ、選んでくれてありがとう。<br>・チームメイトへ、認めてくれてありがとう。<br>・お父さんへ、一喝してくれたおかげだ。 | ○発問の前に、「ぐっと胸に迫ってくる」という描写から、主人公の心情を想像させる。<br>○形だけではない礼は、一人に対してだけ向けられたものではないことに気づかせたい。<br>※「ありがとう」という言葉が出てきたら、誰に対してのありがとうなのかを考えさせる。 |
| | ＜評価＞<br>主人公の気持ちに共感し、様々な人への感謝の気持ちに気づくことができているか。<br>（評価方法）<br>ワークシート<br>＜評価をいかした支援＞<br>相手への感謝に関する発言について、その理由を確認し、「僕」の感謝の気持ちを深く考えさせる。 | | |
| 終末 | ◎ワークシートを記入する。 | あなたが感謝の気持ちを伝えたい人は誰ですか。ワークシートに記入しよう。<br>・今日の授業で考えたこと、感想を記入しよう。 | ○いない場合でも理由を書かせる。<br>○時間があれば感想を紹介する。 |
| | ＜評価＞<br>「僕」の姿を自分の生き方に重ねて、自分も周りの人々の善意や支えに感謝し、それを行動で示そうとしているか。<br>（評価方法）<br>ワークシート、自己評価<br>＜評価をいかした支援＞<br>自分の実生活と照らし合わせることのできる感想記入用紙を作る。<br>⇒グループ活動をする、もしくは生徒の感想を抽出して全体に伝えるなど、自分の意見を表現しやすい環境を作ることに留意する。 | | |

◆研究のまとめ

**○授業実践について、チームとしてのまとめ**

・1 年生でとりくんだが、資料を読んだあと、疲れてしまう生徒がいた。クラブのキャプテンが主人公になっているので、2 年生でとりくむ方が実感しやすいと思われる。

・終末の「あなたが感謝の気持ちを伝えたい人は誰ですか？」という問いかけに対して、いろんな家庭状況にある生徒のひとりが、『お母さん』と応えたことで、この授業をやってよかったと思うことができた。

・この授業を通して、【自分は、主人公のように感謝しているかな？】というふうに、自分の普段の生き方におきかえて、想いをめぐらせる生徒がいたことが収穫である。

・教材を読み解く切り口として、「父の一喝」から主人公が道徳的変化を遂げたとするならば、「向上心」を道徳的価値としてしまうところだが、「感謝」という道徳的価値についてしっかり考えるために、中心発問で、「チームのために自分が尽くすこと」によって「チームメイトから感謝され」、そのことでまた、「自分もチームメイトに対する感謝の気持ちが湧いてくる」というふうに、「僕」の感謝と感動を理解し、共感できるように組み立てた。

**○道徳の評価についての提言**

● 観点が必要

・「意欲」「理解」それぞれの評価を

・「意欲」＝アンケート結果などを通じて、本人の授業に対する姿勢を評価する。

・「理解」＝主人公の道徳的変化など、中心部分の理解ができているか

※　ただし、評価のための授業になってはいけない
　人の意見を聞き合うことの楽しさを尊重すべき

● 生徒の評価とともに、授業改善のための評価を行う。

・他者と実践をシェアするための評価を行う（アンケートなど）。

・生徒のアンケート結果から、生徒自身も、教師も振り返ることができるように工夫。

・教師、生徒それぞれの授業に対するモチベーションを評価できる。

**【各校での実践の記録】**

**◆実施学年　（１年）**

**◆評価を位置づけた授業実践の分析**

**○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）**

・中心発問の場面の発言の様子から

「主人公の努力がすごい」「あきらめないことが大切」といった声が多かったため、ねらいである「感謝」に生徒の意識を向かせる必要があった。そのため、「主人公はなぜこんなふうに努力ができたのかな？」「主人公はどうしてあきらめなかったのかな？」などと指導者から問いかけることで、「お父さんに一喝されたから」といった、周りからの働きかけへ目を向けた意見が出てきた。それから中心発問を考えさせると、主人公の努力よりも周りの人への感謝の気持ちを書く生徒が多くなった。

・ふりかえりの場面の記述から

後半時間が無くなってしまったため、感想を周りに共有する時間があまり取れなかった。しかし、「あなたが感謝の気持ちを伝えたい人は誰ですか」という発問では、生徒はしっかりと自分の身に照らし合わせて書くことができていた。その理由に関しても、いつもはあまり考えないと思われるような深い点まで考えて書いていた。

**○成果と課題**

・「行動で示そうとしているか」という点を評価に入れたことで、ワークシートを見る基準が定まり、評価がしやすかった。

・発言を評価する際、メモを取る余裕がないため、授業後のふりかえりが曖昧になってしまう。教師がもう一人入り、発言記録等を取ることが必要になってくるかもしれない。

・資料がやや難しかったため、授業の半ばで集中力を切らす生徒がいた。ワークシートを記入するように促しても、なかなか行動できなかった。その場合、評価をどうすればよいのか。

**◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）**

○あなたが感謝の気持ちを伝えたい人は誰ですか

誰か

支えてくれている人や、応援してくれている人、グランドやサッカーをできる環境

理由

その人たちのおかげでサッカーをできているから。

**◆参考資料**

○授業を受けた感想を書こう。

この話を聞いて改めてサッカーをできていることやいろんなことに感謝しないといけないなと思った。

**実践校名**（東大阪市立新喜多中学校）

◆実施学年　（１年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

**○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）**

・ワークシートから、何気なく過ごしている普段の生活の中で接する人たちへの感謝の気持ちを表現できたかを見取った。

・「橘」が弱気になった時に、父や監督やチームメイトがどのように彼を支えたのかを考えさせることで、日常自分を取り巻く人たちの投げかけの違いはあるが、自分のためにサポートしてくれていることに気づかせるようにした。

・中心発問で、「橘」が感謝している人物として父はすぐに声が挙がったが、それ以外の登場人物の名前がなかなか挙がらないクラスもあったので、場面を追って振り返り、考えさせた。

**○成果と課題**

・多くの生徒が親や友だちといった、身近な人へ感謝する気持ちが高まった。

・努力する自分を支えてくれる人が周りにいることに、感謝する気持ちが芽生えた。

・普段自分が人に感謝をしていることを伝えているかを自問する生徒もいた。

・努力をし続ける大切さや克己心・諦めない気持ちといった、「橘」へのがんばりに注目する生徒もいた。

・終末に、「今生きていること自体が多くの人の支えがあってこそ」という話をした結果、生徒の大半が、感謝したい人に親（特に母親）を挙げることとなった。ただ、複雑な家庭環境にいる生徒が感謝したい人に「親」と挙げ、「大切に育ててくれた」と書いてくれていたことには一定の成果がみられる。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

道徳　背番号10

年　　組　　番

① この授業をうけてあなたが考えたことを書きましょう。

② あなたが感謝の気持ちを伝えたい人は誰ですか？
またその理由を書きましょう。

・誰か（　　）

・理由

実践校名（藤井寺市立道明寺中学校）

**◆実施学年　（３年）**

**◆評価を位置づけた授業実践の分析**

**○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）**

- 中心発問に対する回答の多くは「チームメイトへの感謝」だった。もういちど全体を振り返りながら、主人公に関係する《父》や《監督》の存在が見えていない生徒に、その意味を考えさせるための指導が必要であった。
- 生徒の意見は概ねつぎのようにまとめられた。

〔監督に対して〕

➢ 自分はただ一生懸命やってきただけなのに、その働きを評価してくれていたことがうれしい。

〔チームメイトに対して〕

➢ 以前は自分が雰囲気を悪くしていたのに、こんなにも拍手をしてもらえて、本当にうれしい。

〔父に対して〕

➢ あきらめずに、野球を続けさせてくれるきっかけを作ってくれて、弱かった自分を叱ってくれて、ありがたい。

- 《僕》の道徳的変化について、次のような点を述べた生徒が多かった。

① 野球に対する情熱の再確認〔←助言者：父〕

② チームを勝たせるために、キャプテンの役割に特化し、キャプテンとして成長

③ 周囲に感謝する謙虚さと、信頼に応えようとする誠実さを会得

- 発言内容にかかわらず、指名されて回答すること自体、あるいはワークシートに記入し提出すること自体を、「関心・意欲・態度」として評価することができる。

**○成果と課題**

部員や監督の支えなどで今の自分があることに気づく主人公の道徳的変化を考えることを通して、周りの人々の善意や支えに感謝し、こたえようとする道徳的実践意欲を高めるのがねらいだったが、生徒側のその後の行動にどのように変化が現れるのかを個別具体的にとらえるのは難しい。しかし、ワークシートを回収し、それぞれの意見をまとめたプリントを返すことで、生徒は他者の意見を学び、さらに深く考えることができたようだ。

課題・・・評価する観点の設定と、評価方法の研究。

**◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）**

次ページ参照

**◆参考資料**

◎中学校学習指導要領解説　道徳編

○「キャプテンなんかやってられんわ。」とこぼしたとき、「僕」は何を考えていたのだろう。

みんなにうまくいえずもどかしい。
みんなもちゃんとやれよ。

○父に一喝された後、なかなか寝付けなかった「僕」はどんなことを考えていたのだろう。

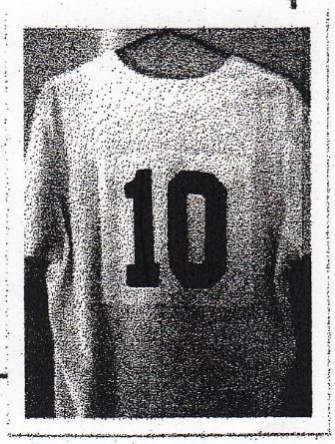
自分が変わらないといけないということ。
自身 あきらめたくない。 みんなのために頑張る。

○二度目の拍手には、どんな思いが込められていたのだろう。

これまでの練習ありがとう。
キャプテンとしてはたらけるのはお前だけや。
明日もよろしく。

○「深々と頭を下げた。」このとき、「僕」は誰に、どんなことを思ったのだろうか。

皆、キャプテンとしてみとめてくれて
ありがとう。
嬉しいよ。




実践校名（富田林市立明治池中学校）

**◆実施学年　（１年）**

**◆評価を位置づけた授業実践の分析**

**○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）**

・　中心発問「深々と頭を下げた時の僕の心情」を考えることを通して、〔監督〕、〔チームメイト〕、〔家族〕、〔野球〕、〔拍手〕に対して、「ありがたい」「幸せだ」と感じることができたかを評価したいと考えた。

・　生徒の意見

〔監督に対して〕

➢　勝ちにはマイナスである僕に、背番号をくれてありがとう。

➢　ケガをしてプレーできない自分のがんばりを見ていてくれてありがとう。

〔チームメイトに対して〕

➢　僕よりうまい人もいるのに、あたたかい拍手をしてくれてありがとう。

➢　僕が背番号をもらうことを認めてくれてありがとう。

➢　キャプテンとして認めてくれてありがとう。

➢　僕の指示についてきてくれてありがとう。

〔家族に対して〕

➢　野球が好きな気持ちを思い出させてくれてありがとう。

➢　「勉強しろ」と言わずに、野球をさせてくれてありがとう。

・　〔野球に対して〕

➢　やめずに続けてよかった。

➢　いい仲間に出会えてうれしい。

〔拍手に対して〕

➢　自分はチームに必要とされている（幸せだ）

➢　認められた証

・生徒が何に対して感謝の気持ちを感じているかを評価するために、中心発問に「誰にどんなことを思ったか。」ということばを付け加えたので、様々なものに対して、感謝や喜びの気持ちを引き出すことができた。また、発言内容を残すために、中心発問に限り、ワークシートに書かせるようにした。（資料①）

・中心発問に全員が発言できるように時間を配分し、それを黒板に書きながら、まとめるようにした。

**○成果**

家族の支えによって、チームのために力を尽くした僕が、チームメイトから感謝されることによって、感謝の気持ちが湧いてきたという「道徳的変化」を考えることを通して、周りの人々の善意や支えに感謝し、こたえようとする「道徳的実践意欲」を高めるのがねらいだったので、中心発問によって、僕の感謝の気持ちに共感することができた。さらに、ワークシートを回収し、それぞれの意見をまとめた学級通信をだすことで、生徒は他者の意見を学びさらに深く考えることができた。（資料②）

**○課題**

「深く考えたことが、生徒のその後の行動にどのように変化をもたらしたか」について、具体的に把握し評価することは難しい。日々の学校生活の中で、生徒の行動をみつけ、「この行動は感謝の気持ちが現れているね」という具体的な言葉かけ〔評価〕が求められていると痛感した。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

資料①　中心発問に対するワークシート

| 道徳「背番号10」 |
| --- |

1年　　組　　番　氏名

| 「深々と頭を下げた。」とき、「僕」は誰にどんなことを思ったのだろうか。 |
| --- |
| |

## 資料②　授業のふりかえりシート

### 道徳「背番号10」

1年　　組　　番　氏名

〇今日の授業について，あなたの気持ちを答えてください。あてはまる数字を囲みましょう。

４＝大変良い・大いにある　３＝良い・ある　２＝少し良くない・あまりない　１＝良くない・ない

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ①　今日の道徳は，自分のためになりましたか。 | ４ | ３ | ２ | １ |
| ②　今日の道徳で新しい発見がありましたか。 | ４ | ３ | ２ | １ |
| ③　今日の道徳の資料は，どうでしたか。 | ４ | ３ | ２ | １ |
| ④　今日の道徳は楽しかった（興味深かった）ですか。 | ４ | ３ | ２ | １ |

〇この時間を振り返って，感じたこと・考えたこと。

〇誰の意見が印象に残っていますか。印象に残った理由も教えて下さい。

（　　）さん

［理由］

**実践校名**（富田林市立第二中学校）